

答えを早く知りたい！時間がない！そんな方へ。

[1] ヒョウとジャガーは間違えやすいかもしれません。

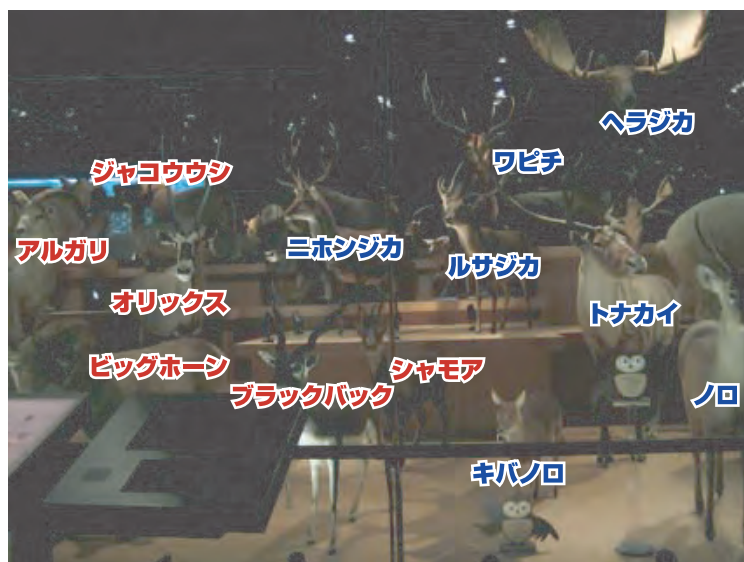


[2] パンダはしっぽに注目。シマウマもよく見ると単純ではありません。

※個体差があるので、たった一つの正解にはなりません。



[3]～[5] ウシとシカの見分け方。



枝分かれした角を持つのはシカ。
まっすぐや巻いている角をもつのはウシ。
・・・ということで、シフゾウはシカの仲間。



キバノロには、「きば」をつけてあげてください。

答えを早く知りたい！時間がない！そんな方へ。

[6] ゴリラの足。



ゴリラの足の指は、人間の手のよう。木登りに適しています。水かきはありません。

[8] ラクダ。

ラクダのコブは皮下脂肪。筋肉の上に、コラーゲンによってしっかり接着されています。コブの実物は、1階で見られます。

[10] イスカ。

イスカはマツボックリから松の実を上手に取り出します。どちらの向きに互い違いになるかは決まっています。

[11] カオグロサイチョウ。



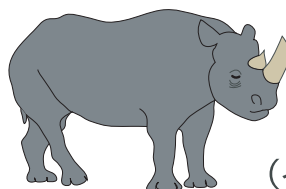
サイチョウはくちばしの突起がサイの角に似ているので「サイチョウ」です。1階に立派な突起を持つサイチョウが展示されています。

[7] クロサイ。

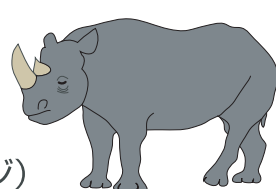
クロサイの名前は、実は勘違いが元になって名付けられました。先に名前が付いたのがシロサイでしたが、口が広いという意味のオランダ語が、英語で「白い」という意味で伝わってしまい、「シロサイ」になってしまいました。

そしてシロサイではない方のサイを「クロサイ」と呼ぶことになりました。シロサイは地面の草を食べるので口が平らで広く、クロサイは木の枝や葉を食べるので口がとがっています。

口が広いシロサイ



口がとがったクロサイ



(イメージ)

[9] フクロウの足とフラミンゴのくちばし。

フクロウの仲間にはワシやタカと同じで、するどい足の爪やくちばしを持っています。フクロウのえさは種によって異なりますが、小型のほ乳類や鳥類、魚、昆虫などです。



フラミンゴは水中にくちばしを入れ舌を前後させて、水を出し入れします。くちばしの縁はくし状で、プランクトンや藻類などがひっかります。

[12] タマシギはメスが派手。

展示されているのはメスです。タマシギはメスがオスを繁殖相手にゲットするため、メスの方が派手になるよう進化しました。メスは卵を産むと、後はすべてオス任せ。オスが卵をあたため、ヒナを育てます。